

安保破棄ニュース

No. 572
2024. 12. 16

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒五四三〇〇一四 大阪市天王寺区玉造元町一七一三
TEL 〇六一六七六一三三三三
FAX 〇六一六七六一三三三六
Eメール anpo-osk@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.anpo-osk.jp>

政治を動かし、 平和憲法がいきる日本を！！

2024年を振り返って

今年1年を振り返りながら、自衛隊がいままでの様な現状にあるのか、そして日本の国が日米安保体制の下、日本国憲法に相いれない現政権による政治によって、いかに危険な状況にあるのかを、私たち安保破棄大阪実行委員会の活動を通して見てみました。

○2024年1月25日、八尾市会議員団との懇談
自衛隊八尾駐屯地の強靱化としての格納庫建設や拡張計画、土地
利用規制法による「注視
区域」指定、自衛隊員募集に係わっての市からの名簿提供の問題点
についての情報交換を行
いました。

○2月7日、近畿安保オンライン学習会・第11弾 「沖縄から大軍
拡政治を斬る！」

沖縄でのミサイル基地の建設、弾薬庫の新増設など自衛隊基地の
「強靱化」を進め、実戦さながらの実動演習や米軍との合同演習を
繰り広げているリアルな実態をつかむため、瀬長和男さん（沖縄県
統一連事務局長）を講師に迎え開催しました。

○2月27日、米強襲揚陸艦アメリカの大阪港入港に反対する緊急抗
議行動

大阪南港に、米海軍強襲揚陸艦アメリカが昨年引き続き、日米
共同訓練「アイアンフィスト」の最中、親睦と休養と称して入港し
ました。

平和団体3者と共に、港湾を管理する大阪市に対して入港を許可
しないことを求める要請書を提出し、現地で緊急の抗議行動を行
いました。

3月28日には大阪港湾局からの「要請書」に対する回答を受けて
の協議を行いました。

○4月15日、近畿安保・自衛隊基地視察行動 第1回 滋賀県
饗庭野演習場

自衛隊が急速に変貌していることを近畿圏内各所の基地でも確認
し、戦争に備えての抗たん性・継戦性を整備・強化するための工事
などの実態を掴むため、新たな取り組みとしてこの視察行動を始め、
饗庭野を訪れました。

○5月24日・7月10日、米陸軍との実動訓練（オリエント・シール

ド)の中止などを求める申し入れ行動

7月18日～26日、中部方面区では饗庭野演習場、同時に、北海
道の矢白別演習場、兵庫県の伊丹駐屯地等を使用して、米陸軍との
実動訓練（オリエント・シールド）を実施することが発表されたため、
ふるさとをアメリカ軍に使わせない滋賀県連絡会とともに、近畿安
保として近畿中部防衛局と陸自中部方面隊に対しての申し入れ行動
を行いました。

○10月9日、日米共同統合演習「Keen Sword 25」の中止
などを求める申し入れ行動

自衛隊中部方面隊に対して、10月23日～11月1日に実施する
と発表された「Keen Sword 25」の中止などを求める申し
入れ行動を行いました。

○11月7日、米軍艦の大阪港入港に反対する抗議行動

大阪南港丁岸壁に米海軍の掃海艇。パトリオットが、11月7日
10日まで入港すると突然連絡が入ったため、入港を許可しないこと
を求める要請を大阪市に行い、緊急の抗議行動を行いました。

戦後80年を迎える来年2025年。

私たち国民が政治を動かし、世界に誇る平和憲法が本当に生きる
日本となるために、参議院選挙などでの勝利を勝ち取るため、共に
頑張りましょう。

23 宣伝行動

11月の安保破棄大阪実行委員会23定例宣伝行動を11月22日の12時から、大阪
市庁舎近くの淀屋橋で行いました。今回で通算430回目の23行動となります。

ビラ配布、プラスターをもってのスタンディング「代執行による辺野古新基地建設
工事の中止と普天間基地の無条件撤去を求める請願」署名協力呼びかけ、弁士による
訴えを行いました。11人の参加でした。弁士は、大阪憲法会議、大阪AALA、大阪労
連から出いただきました。

前日の祝園弾薬庫の視察を踏まえた話、総選
挙後新しい政治の流れができていくこと、当選
した議員の行動・言動を注視していきましょう
などのことを訴えました。

次回の23宣伝行動は、沖縄の「県民大会」に
連帯する全国行動の一環として、大阪革新懇と
ともに12月23日に行います。昼の12時から、
場所はいつもと同じく淀屋橋で行う予定です。



日米地位協定の 問題点と課題

近畿安保オンライン学習会 第12弾「日米地位協定」

12月5日(木)の夜、近畿安保が連続して取り組んでいるオンライン学習会の第12弾として、「日米地位協定」をテーマに、仲山忠克さん(沖縄革新懇代表世話人・弁護士)にお話しいただき、近畿各地23カ所で約40名の方(大阪は大阪民医連会議室に8名+4カ所4名)が視聴しました。

まず、日米地位協定を考える時、「日本の国家統治の中で、日米地位協定がどのような位置にあるのか」を押さえておくことが大切で、それさえ押さえておけば、地位協定の中身についての理解は十分にできると語られました。

そして、本来、憲法を最高法規として統治を行うのが、現代国家の在り方であるにもかかわらず、日本は、憲法体系(武力によらない平和)と安保法体系(武力による平和)が併存するということになっており、我が国の戦後史は、憲法体制と安保体制の対立と相克(攻防)の歴史だと指摘されました。

その上で、日米地位協定はあくまでも日米安保条約の下位法であり、対米従属の軍事同盟としての性質(自発的従属性)を本質とする日米安保条約を現実化するものであることを、19世紀のフランスの哲学者の「圧政は、支配者のおこぼれにあずかる取り巻き連中が支え、民衆の自発的な隷従によって完成する」という言葉を紹介しながら、その内容は、我が国の国家主権の放棄・制限として現れる

諸団体の取り組み、当面の予定など

12月

- 18日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00~
- 23日(月) 沖縄県民大会に連帯する大阪行動
(大阪安保・大阪革新懇共同) 12:00~ 淀屋橋

2025年

1月

- 15日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00~ 大阪安保事務所
- 23日(木) 大阪安保23 宣伝行動 12:00~ 淀屋橋
- 29日(水) 近畿安保合同会議 15:00~ 大阪安保事務所



自衛隊の強靱化計画が進められていることに全国で危機感が募っています。その実態をつかむために、近畿2府4県の安保破棄実行委員会は、近畿圏の自衛隊基地視察行動をこの間取り組んできました。その第3弾として、京都府精華町にある、祝園(ほうその)分屯地・弾薬庫の視察と学習会を11月21日に取り組みました。広く参加を呼び掛け、36人が参加しました。大阪からは20人の参加でした。



集会所での学習

祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワーク事務局の信田宜司さんから、祝園弾薬庫の歴史から現状、なぜ今弾薬庫の強化・拡張が行われているのか、その危険性など、詳しくお話を伺いました。そのあと、バスと自動車に分乗して、祝園分屯地の周囲を回りました。知らなければ、ただ目の前にもりが広がっているだけかのように思われる景観で、分屯地の門のすぐ近くには民家もあり、周りにも多くの田畑や民家が集まっていました。このようなところで、弾薬庫の事故が起こったらと思うと恐ろしさを感じさせられました。

ということを厳しく解明され、国民自身の自覚についても促されました。

また、米軍が何をするために日本に駐留しているのかを考え、その本質が軍隊以外の者に向かえば、それは当然許されない犯罪となり、刑事事件は不可避となるということから、日米地位協定の中でも3条(排他的管理権)と17条(刑事事件について)が米軍による死活的な利益であり、地位協定の構造そのものが米軍犯罪を助長していると指摘されました。

あくまでも、日米地位協定の改定は、安保体制を打破し、本来の憲法体制を確立するための過程として考えるべきだと自覚して取り組みましょう。

近畿圏の自衛隊基地視察行動 第3弾「祝園分屯地・弾薬庫」

